

ブルーの時代が到来！？



みなさん、ゴールデンウィークは満喫できましたか？私は実家に帰省して、元気に動き回る小学2年生の姪っ子の相手をして遊んだり、動かない庭木の手入れをしたりと自分なりに楽しんで過ごしていました。タクミの若手社員達は連休があまりに楽しすぎて、連休明けの出勤日には重い足取りでブルーなオーラ全開で入社していました。いわゆるサザエさん症候群ですね！私も学生時代夏休みや冬休みの最終日は気分が落ち込んでいたことを思い出します。実は、全国的に大型連休明けは新入社員の退職が増えるタイミングということで、各社の人事担当は違う意味でブルーになっているかと思います。

ところで、この「ブルー」という表現ですが、「憂鬱な」「気分が落ち込んだ」「悲しい」といった意味を表すのはご存じですよね。そのルーツは、中世にまで遡り、当時青色は冷たさや静けさを象徴する色とされており、アフリカ系アメリカ人が奴隷とされた時代、過酷な労働を強いられる晴れた日に、青空の下で歌ったのが、現代の『ブルース (blues) 』だったという説があります。一方、日本語では「青」という色は果てない空や海を連想させ、「青春」という言葉でも使われるように「若さ」「未熟さ」「みずみずしさ」「爽やかさ」といったフレッシュなイメージがあります。国や地域によって様々なイメージを持つ青色ですが、「平和」の象徴として国連のシンボルカラーにもなっています。時代と共にポジティブな意味合いを併せ持つようになってきたようです。

さて、ブルーと言えば、最近ニュースなどで「ブルカラービリオネア」という言葉を耳にすることはありませんか？ブルーカラーとは「青い襟（作業服）」を、ビリオネアは「お金持ち」や「億万長者」を意味します。つまり、ブルーカラービリオネアとは、建設・設備・物流・製造・整備・運輸などの「現場系・技能職」が、高度な専門技術によって従来のイメージや一般的に上流階級とされるホワイトカラー労働者の収入を上回る高収入や富を築いた人々、またはその現象を指す言葉です。ここ数年AIの台頭によってホワイトカラーがAIに代替される潮流を受け、AIに代替されにくい熟練技能を持つブルーカラーの価値が高まり、アメリカを中心にブルーカラー人気を押し上げています。経理や事務、企画、管理、広報、マーケティング、法務など人を相手にしないホワイトカラーの一部の業務は消滅すると言われています。そんな時代だからこそAIに自身の未来を乗っ取られないよう、日本でもホワイトカラーの5人に1人がブルーカラーへ転職しているデータもあります。製造ラインで働くブルーカラーは開発担当のエンジニアを除き、近い将来AIに代替されるという危機感を持っており、転職を検討するケースが増加しているそうです。日本のキャリア構造が大きく変化しつつあるということがわかります。AIが労働市場を席卷する現代において、『ホワイト志向』は終焉を迎え、『手に職をつける』ブルーを選ぶことがポイントになりそうです。

新しい時代を力強く生き抜く就活生のみなさん、潮流を読み『手に職をつけるブルー』を選択して、AIと仲良く『平和』なキャリアライフを目指しましょう♪ブルーオーシャンなビジネス戦略で急成長中のタクミ電機工業は、ブルー志向のみなさんからのご応募をお待ちしています！！

